

# 甲斐市立竜王小学校 自己評価書（後期）

平成27年2月6日(金) 作成

校長 「奥山 賢一」

記述者 職名(教諭・教務主任)「望月 政幸」

## 学校教育目標

- 「明るく元気な竜の子」の育成
- ・た…助け合う子ども……………(情)
  - ・つ…強い心を持った子ども…(意)
  - ・の…伸びゆく体の子ども……(体)
  - ・こ…根気強く学ぶ子ども……(知)

## 学校経営方針

- (1)教職員の英知と和を結集し、学校教育目標の具現化に努める。
- (2)児童一人ひとりの自己実現を目指す学校づくりを推進する。
- (3)研修活動を活性化し、自ら学ぶ授業づくりを推進する。
- (4)特色ある学校づくりに努める。
- (5)安全・安心な学校づくりに努める。

## 1 全体評価

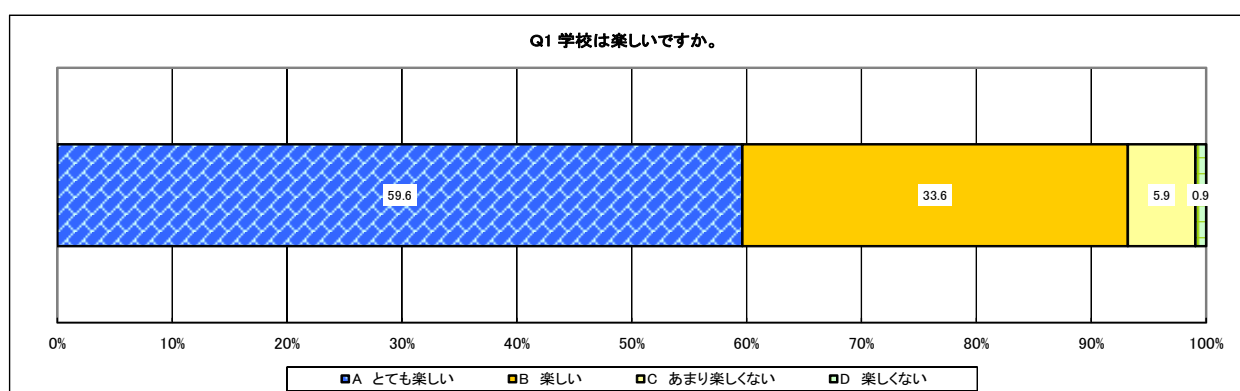
2回目の教職員自己評価も前回同様に、「学校教育目標に関して・学校経営について」「学校運営について」「学習指導について」「生徒指導について」「地域との連携について」「学校の特色に関して」の6観点について、それぞれ(A:そう思う B:ややそう思う C:ややそう思わない D:そう思わない)4段階でアンケートを実施した。

○ **49項目中41項目でA+B=100%、8項目がA+B≥90%**、であり、否定的な回答率が10%を超えた項目は今回見られなかった。このことから、全般的には肯定的な結果となり、職員が自信を持って教育活動に臨んでいると言ってよいのではないだろうか。

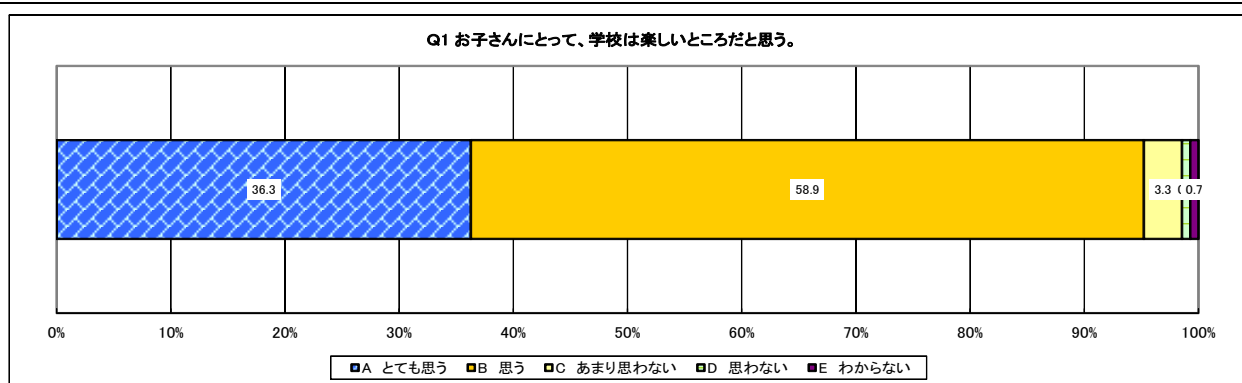
○昨年度の課題や第1回のアンケートで気になった項目については、職員会議を通じて確認し合い取り組んできた。その結果については、2の項目で触れることにする。

○今回も、児童アンケートを行っている。前回や昨年度との比較において大きな変化は見られなかったもので、特徴的なものをあげることにする。

○今回は、保護者アンケートも実施した。結果については、昨年度とほぼ同様の状況である。課題が残る項目については、今後の教育改善の参考資料としていきたい。



※児童アンケート「学校は楽しいですか」では、93%以上の児童が『楽しい』と答えている。しかし、反面7%（30名程度）の児童は、1回目同様に否定的な意見を寄せている。今後も、これらの児童については、より一層目を向けていく必要があると思われる。またこれまで同様に、この結果はクラスごとに行われるQ-U調査との相関を見ながら取り組まなければならないと思われる。



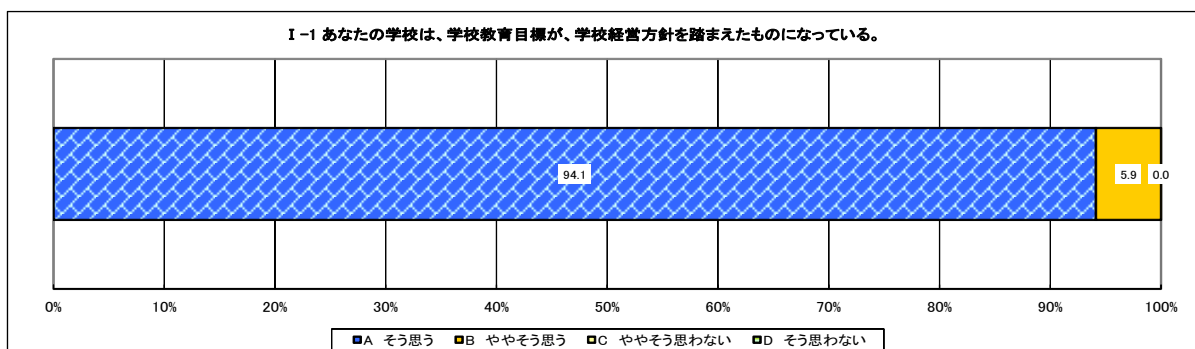
※保護者アンケートにおいても、95%以上の肯定率であり、前回よりAが3%程度向上し、C評価がその分減ってきている。

## 2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）

### I 学校教育目標に関して・学校経営について

「学校教育目標に関して・学校経営について」は、**①②③④⑤⑥⑧ (A + B = 100%)**、**⑦ (A + B = 90%)**。学校教育目標を踏まえ、P → D → C → A サイクルを取り込んだ、適切な学校経営への努力がなされていると思われる。今後はさらに努力を続け、Aの値が増えることを目指したい。

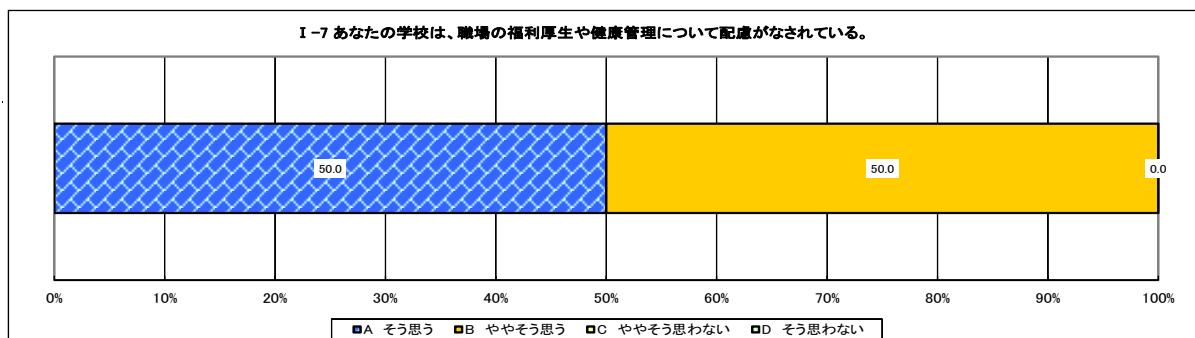
達成状況 Q1-1 「あなたの学校は、学校教育目標が、学校経営方針を踏まえたものになっている」  
〈今回の評価〉



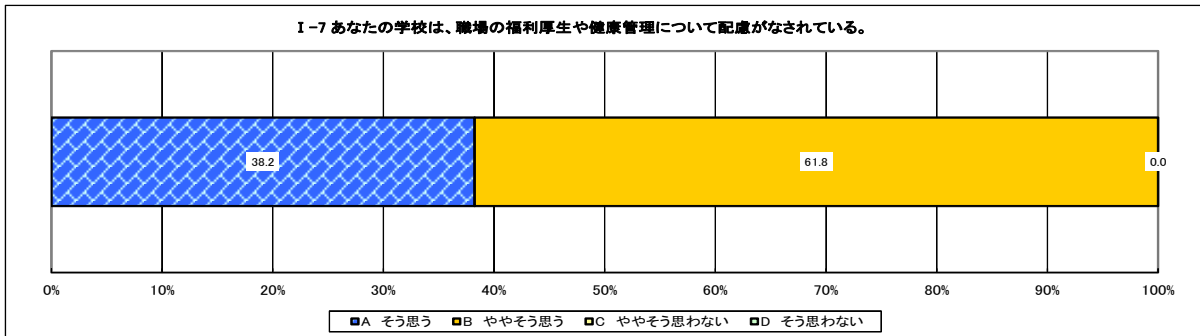
※最も中心となる「学校目標・学校経営方針」について、今回も安定した結果が見られた。

・⑦の「職場の福利厚生や健康管理についての配慮」の項目においては、毎回のように改善項目としてあげられている。学校の多忙化や問題の複雑化などに伴って、画期的に向上することは難しい項目であると思われるが、充実した教育活動推進のため、職員の心身の健康に留意していく必要がある。

Q1-7 「あなたの学校は、職場の福利厚生や健康管理について配慮がなされている」  
〈前回の評価〉



〈今回の評価〉



※以前のように否定的な回答は見られないが、厳しい現実はある。今後も、職場全体で力を合わせていけるよう努力を続けたい。

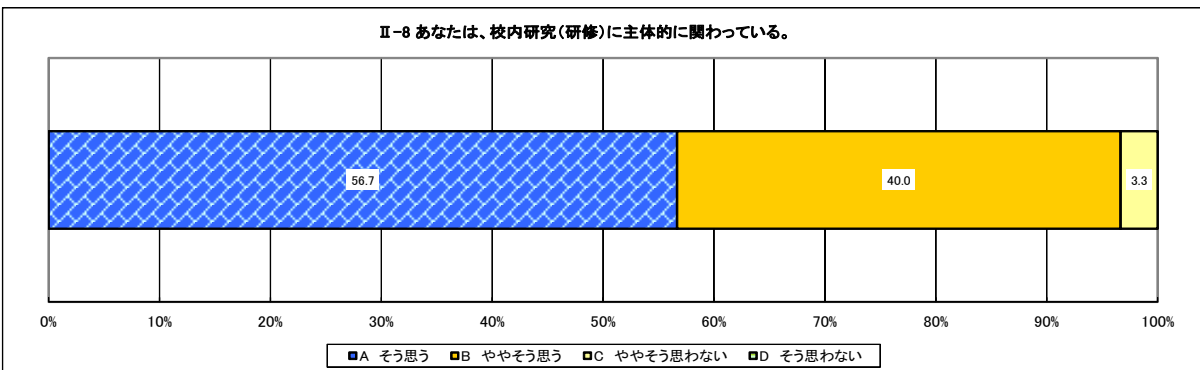
改善策

- ・ 日常の声かけ、小さなところからの協力体制づくり等によって、笑顔ある職場づくりをさらに推進する。
- ・ 各種会議や行事等の効率化を図り、教育活動における教職員相互の協力体制づくりに努め、勤務時間外業務の解消を行っていく（特に来年度に向けて）。また補欠計画を組むなど、体調不良や家庭の事情等による休暇がとりやすい職場づくりを更に進めていく。

## II 学校運営について

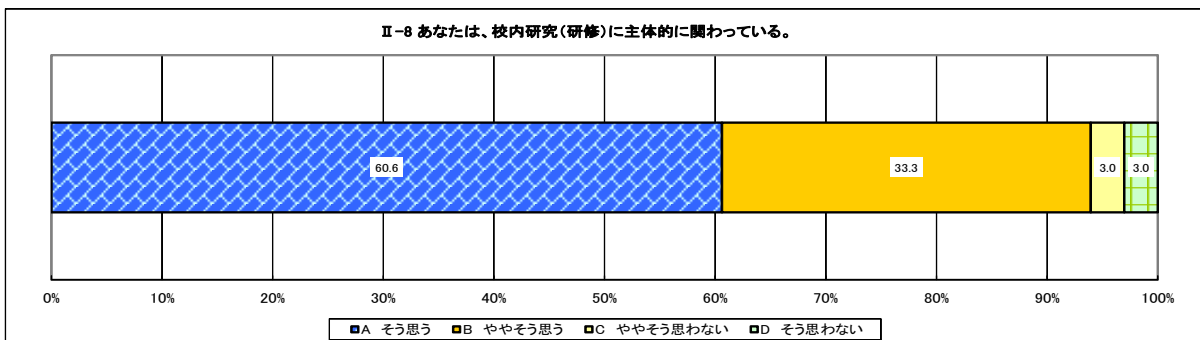
「学校運営について」は、前回同様の結果となり、**①②③④⑤⑥⑦⑨ (A + B = 100%)**、**⑧ (A + B ≥ 90%)**。全般的に高い肯定率となっている。特に「報告・連絡・相談・確認」のシステムがしっかり機能していることが分かる。今後も、それぞれの分掌で連絡調整を十分に行いながら円滑な学校運営を進めたい。前回課題として取り上げた⑧校内研究について触れていく。

〈前回の評価〉



Q II-8 「あなたは、校内研究（研修）に主体的に関わっている」

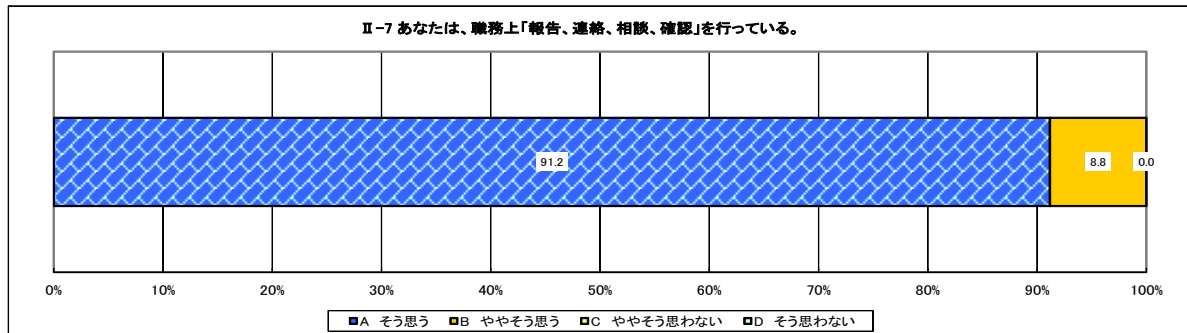
〈今回の評価〉



※ほぼ前回同様である。教員の資質向上のためにも、意欲的に取り組んでいきたい。

※「創甲斐教育」の指定を受け「習得・活用・探求する児童の育成」をテーマとした公開研究会を1月22日（木）に開くことができた。支援員や教務職員などにとっては普段の授業形態からなかなか難しいこともあったが、全職員力をあわせながら日々の学習活動に向かい、児童の学力向上のために努力できたことは確かである。

Q II-7「あなたは、職務上 報告、連絡、相談、確認を行っている」



改善策  
 ・目指す児童像を明確にし、児童の学力向上を図るといった目的に向かって、今後も全職員が主体的に取り組む姿勢が見られるような研究・研修課題を仕組んでいく。  
 ・今回の指定研究で高めた資質や能力を、今後も児童の確かな学力のために積極的に発揮していけるように努力を続ける。（今年度で終わりということにしない方向）

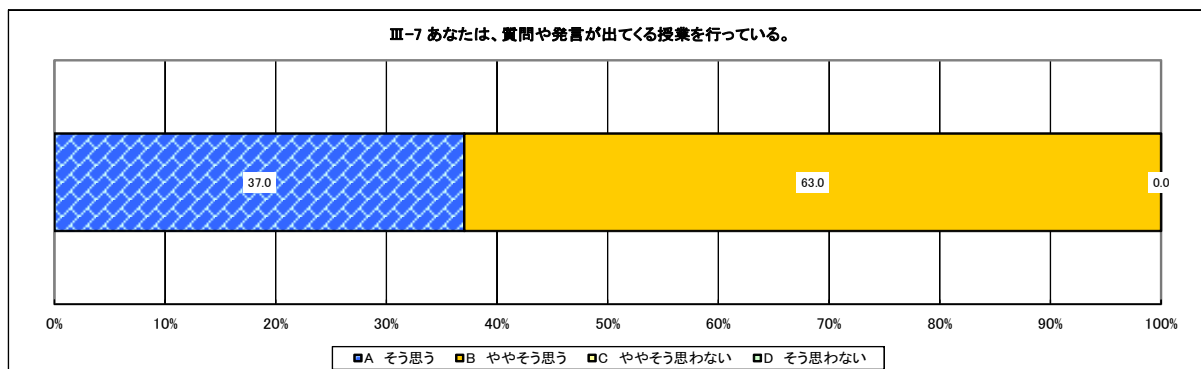
### III 学習指導について

達成状況

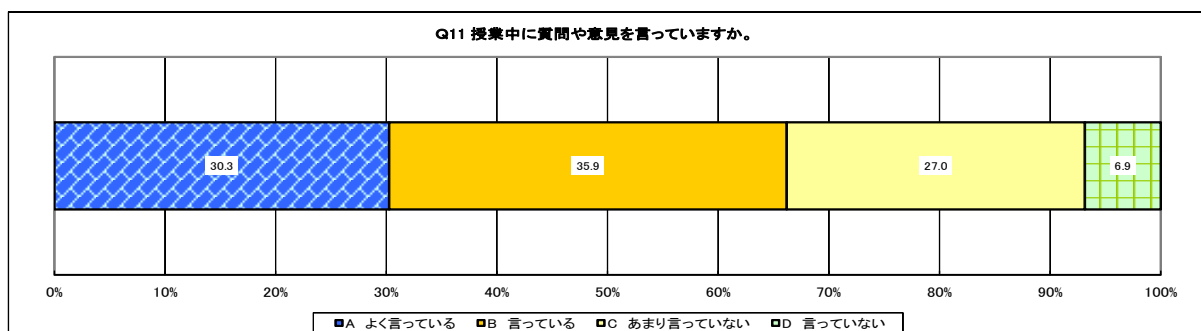
「学習指導について」は、①②③④⑤⑥⑦⑧⑩ (A + B = 100%)。⑨ (A + B ≥ 90%)。一般的に、肯定的な結果となっていることが分かる。

・前回課題としてあげた Q III-7「あなたは、質問や発言が出てくる授業を行っている。」については、ほとんど変化が無く、今後も努力を続ける必要がある。

〈今回の評価〉

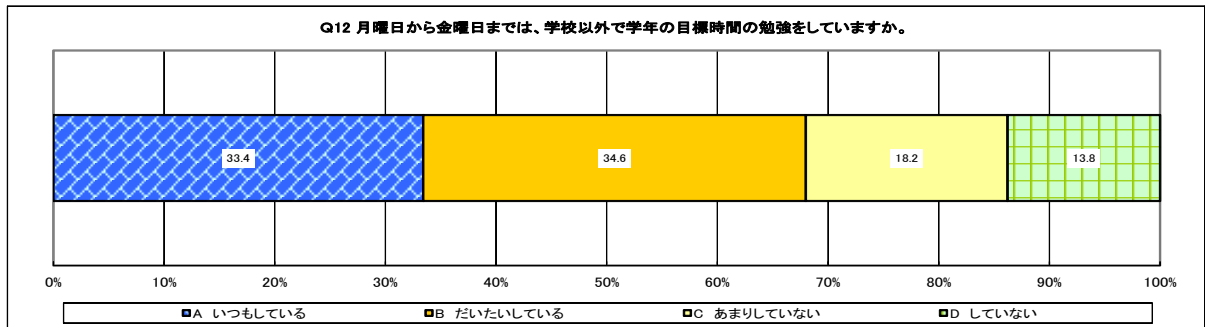


Q11 児童「授業中に質問や意見を言っていますか」の結果は以下の通りである。

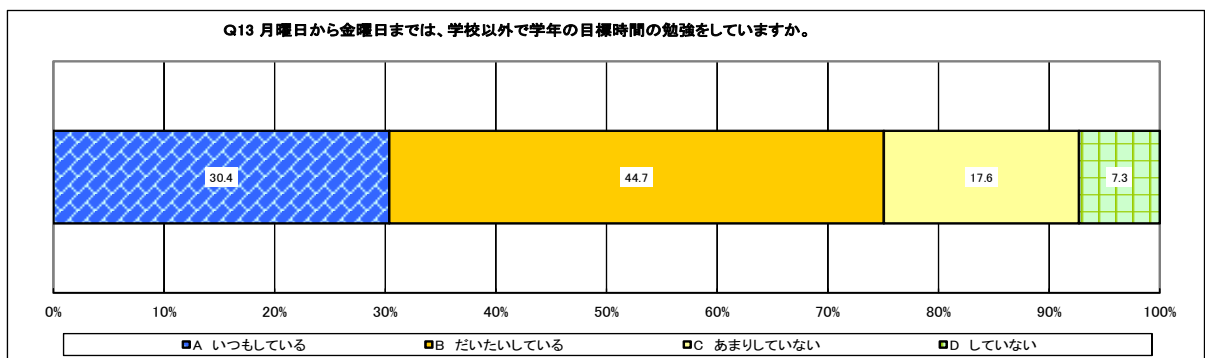


※授業の基盤となる 学習規律や学び方や発言のルールなど、竜王小学校のスタイルを決め、全校的に取り組んでいかなければならないように思われる。

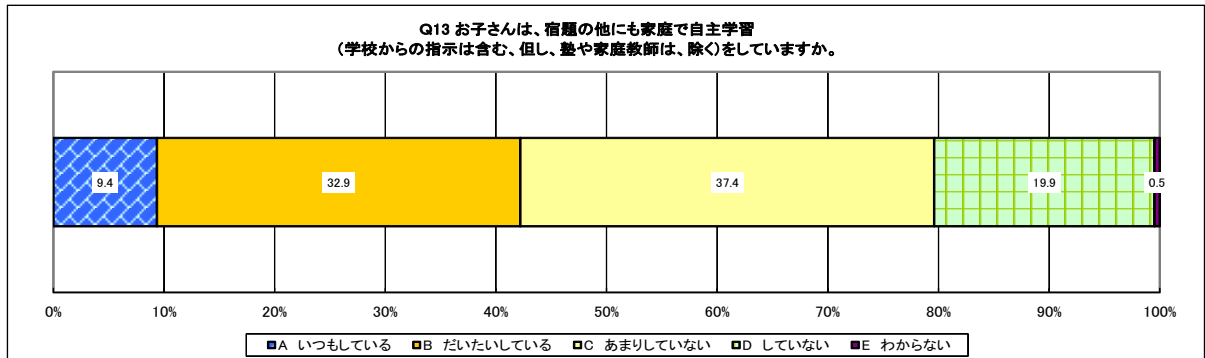
・昨年度のアンケートによって、**学校以外での学習時間についての課題も見えていた。**  
 児童 Q12 「学校以外で学年の目標時間の勉強をしていますか」(学年×10 + 10分)  
 〈昨年度の評価〉



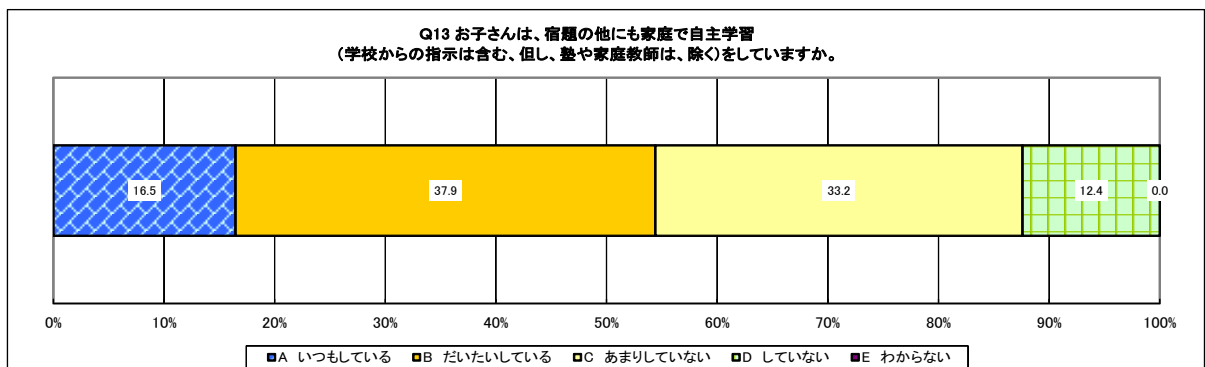
〈今回の評価〉



保護者 Q13 「お子さんは、宿題の他にも家庭で自主学習をしますか」  
 〈前回の評価〉



〈今回の評価〉



※甲斐市「創甲斐教育」の一環として、『学年×10+10分』が目標となっている。昨年度、児童のA評定は33.4%，B評定も34.6パーセント（肯定率68%）と低く、Dが13.8%もいる状況だった。この反省を生かし、今年度開始から全校的に「家庭学習の手引き」を示し、児童ならびに保護者への啓発を進めながら取り組み始めたところ、**肯定率75.1%となりD評価も半減した。**あわせて保護者アンケートの結果からも、少しずつ家庭学習の改善が図られているように思われる（Aをさらに増やしたい）。

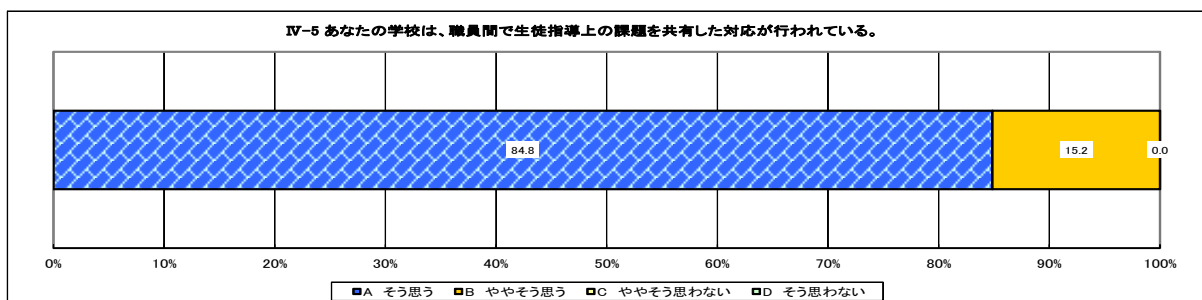
改善策  
 ・児童が自信を持って発言し合えるような学級づくりや学習規律の構築，児童が考え表現し合えるような授業づくりを今後も継続し，意見を出し合うことが普通であるという授業形態や雰囲気作りのベースを学校として作りあげ，全校体制として取り組んでいく。  
 ・今後も家庭学習ノート等の具体的な内容を検討し，家庭学習の深まりを図りたい。

#### IV 生徒指導について

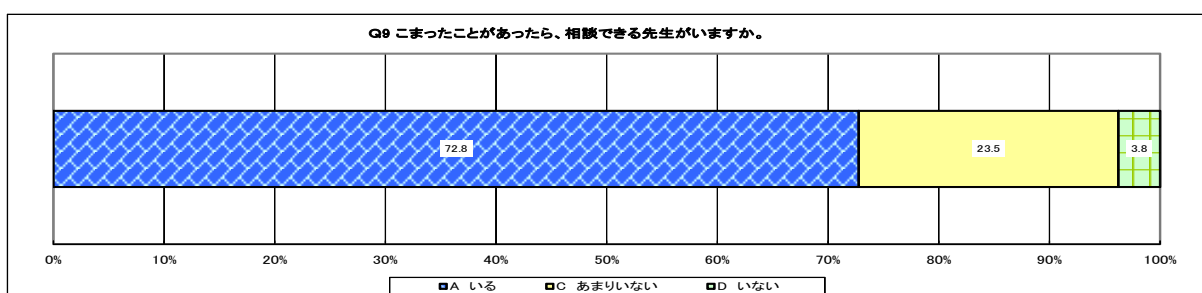
「生徒指導について」は、**自己評価すべての項目で（A+B=100%）**となっている。本校では、日常より組織立てた体制で生徒指導に当たることができている。そのため、高い数値が見られるのであると思われる。特に、いじめや不登校についての取組は、一層充実させたいと考えている。**今後、ますます難しく深刻化することも予想されるので、早期発見，早期対応を心がけたい。**

〈今回の評価〉

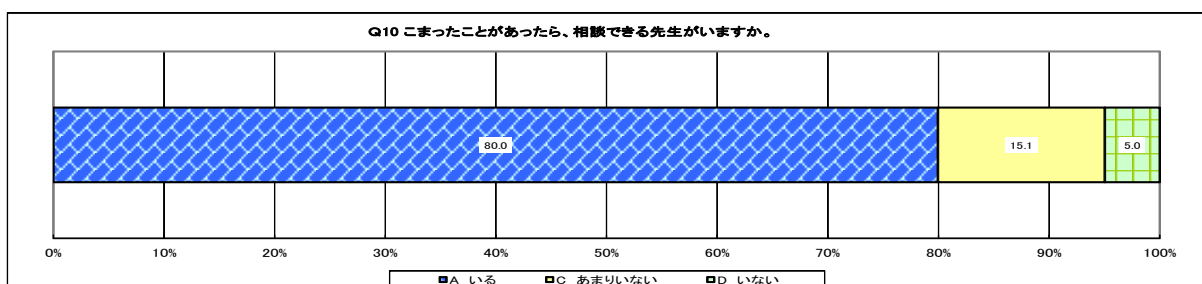
Q IV-5「あなたの学校は、職員間で生徒指導上の課題を共有した対応が行われている」



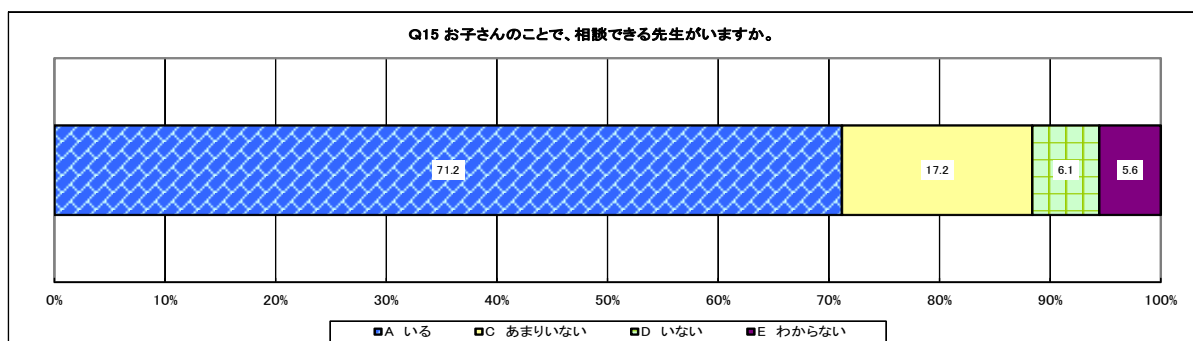
・昨年度、教師への相談について課題として取り上げている。  
 児童アンケート Q 9 「こまったことがあったら、相談できる先生がいますか」  
 〈昨年度の評価〉



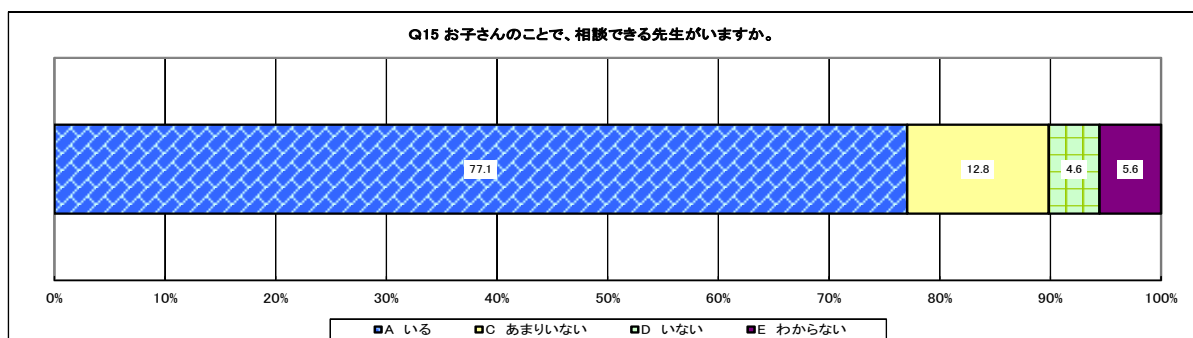
〈今回の評価〉 Q10 「こまったことがあったら、相談できる先生がいますか」



保護者 Q15「お子さんのことで、相談できる先生がいますか。」  
 〈昨年度の評価〉



〈今回の評価〉



※相談できる先生がいるという児童および保護者の割合が増えてきていることは、うれしい限りである。しかし、20%程度の児童や保護者が相談できる先生はいない（あまりいない）と答えていることも事実である。**教育を進めていく上で、何よりも職員と児童、職員と家庭との信頼関係を深めていくことが大切になる。**

改善策

- ・授業中や休み時間はもちろん、日常より児童とのコミュニケーションを心がけ、児童との信頼関係を深め、何でも相談できる関係を築いていく。併せて、児童理解や問題行動の早期発見にもつなげていく。
- ・担任だけでなく、管理職をはじめ教務職員も率先して全校児童との触れ合いの機会をもつように心がけ、保護者から相談できる先生となっていくようにする。
- ・小さなことでも情報交換を図りながら、健全な生活習慣や生活態度の育成のために協力体制を強めていく。

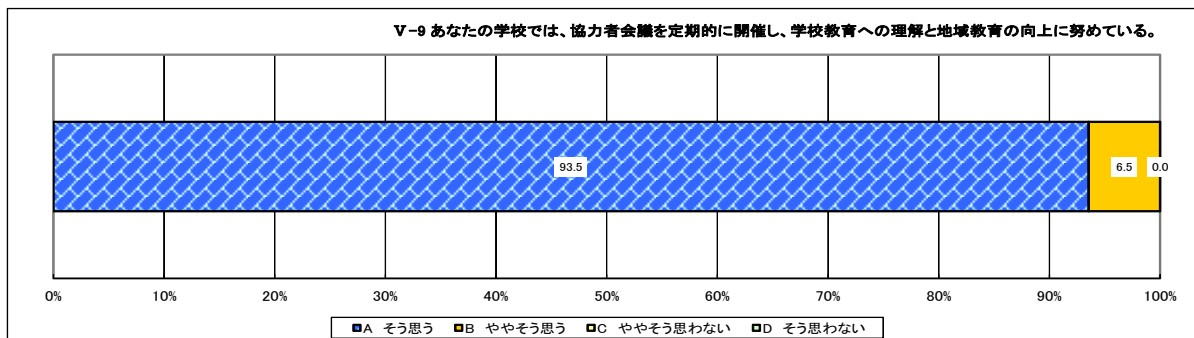
#### V 地域との連携について

達成状況

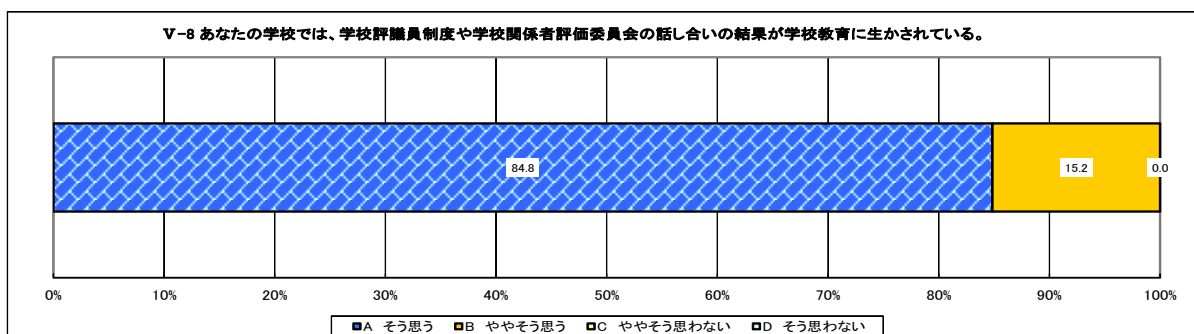
「地域との連携について」は、**②③⑧⑨ (A + B = 100%)**、**①④⑤⑥⑦ (A + B ≥ 90%)**となっている。学校の活性化のためには、地域や家庭との連携は不可欠である。この項目においても高い評価が見られることも本校の特徴の一つである。

・本校独自の活動である「協力者会議の開催」についての項目について、評議員制度や評価委員会の話し合いが生かされているという回答が特に高くなっている。

QV-9「協力者会議を定期的を開催し、学校教育への理解と地域教育の向上に努めている」  
 〈今回の評価〉

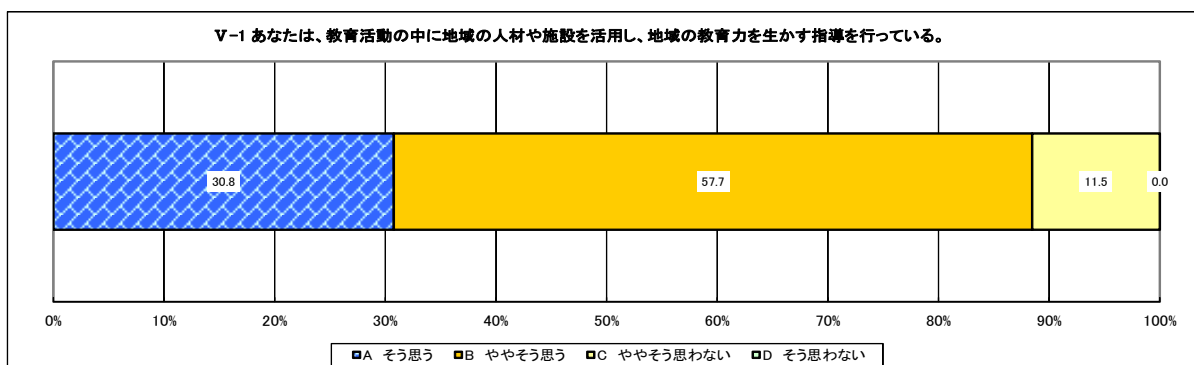


QV-8「あなたの学校では、学校評議員制度や学校関係者評価委員会の話し合いの結果が学校教育に生かされている」

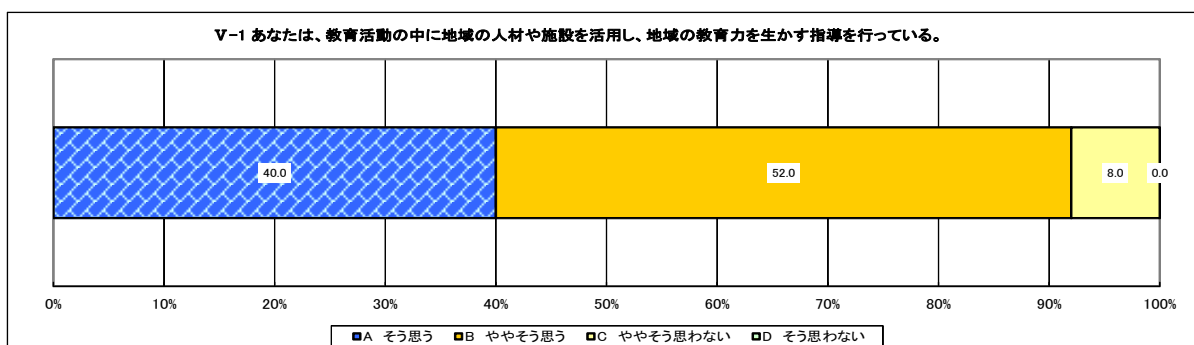


QV-1「あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っている」に関しては、本校の立地条件や地域の人材を生かした学習指導を心がけているため、徐々に向上を見せている。

〈昨年度の評価〉

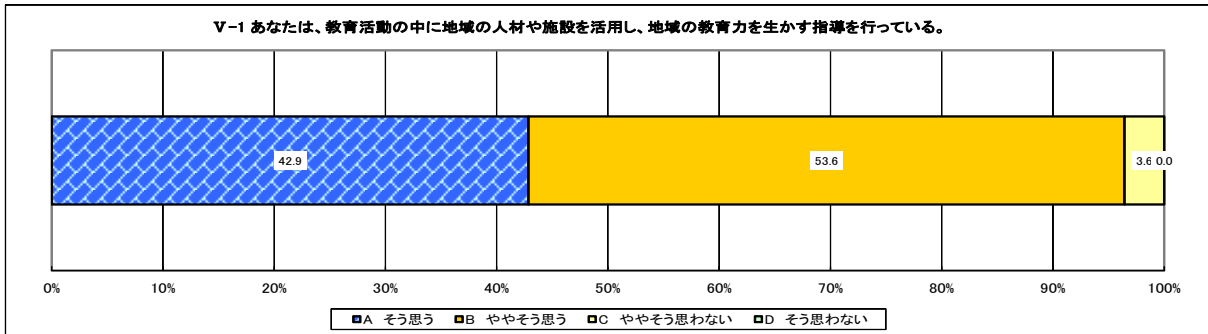


〈前回の評価〉





〈今回の評価〉



改善策

- ・今後も「家庭や地域に開かれ、信頼される学校づくりの推進」のため、地域との連携を深めるとともに、地域の教材や人材を教育資源として取り入れ、地域の教育力を生かす教育活動に取り組んでいく。
- ・協力をお願いするだけでなく、学校側も積極的に出て行くことを心がけたい。
- ・学校評議員、地域や PTA の代表者からなる協力者会議を定期的で開催し、さらに学校教育への理解と協力、地域の教育力の向上についての取り組みを推進していく。今後も、その場でいただいたご意見を職員会議等の場で確認し合い、その後の活動に生かせるようにしていく。

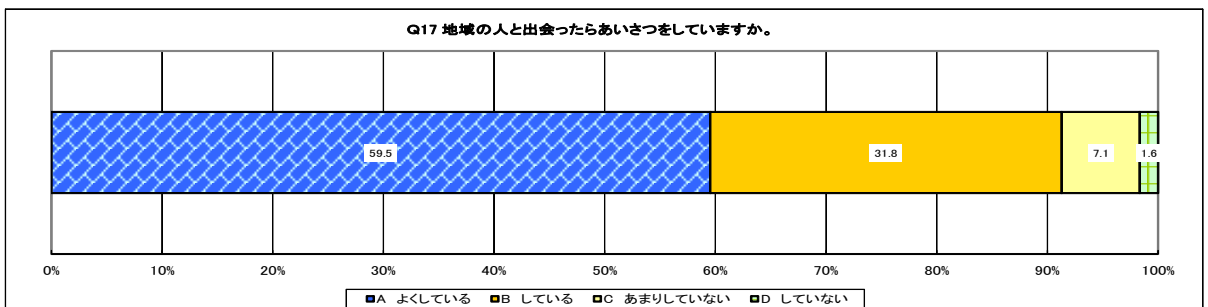
## VI 学校の特色に関して

達成状況

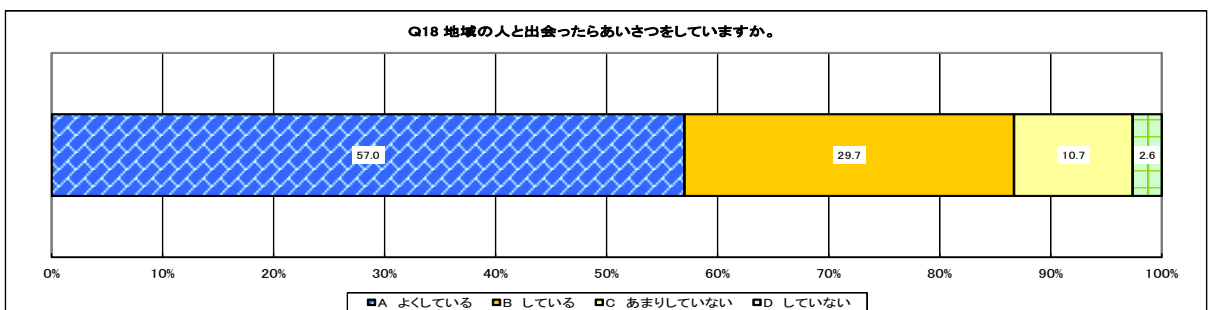
「学校の特色について」は、すべて (A + B = 100%) となっていて、「あいさつ運動」「学校開放日」「読書活動」「児童会活動」「授業時数の確保」「教育機器 (ICT 等を含む) を取り入れた活動」等、本校が力を注いでいる教育活動の目標達成に向けた職員の間関心や意欲に関しては、前回と同様に高い数値が見られる。

児童アンケート Q17「地域の人と出会ったらあいさつをしていますか。」

〈昨年度の回答〉

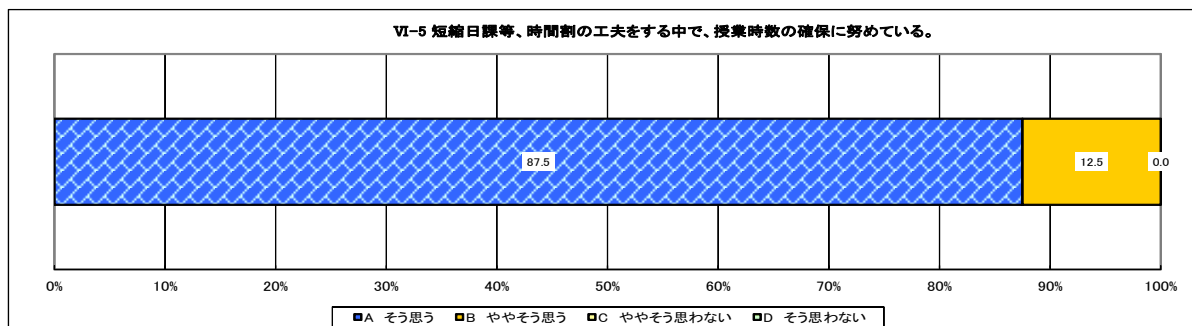


〈今回の回答〉



※このところ、児童の回答にほとんど変化がない。児童会活動等を通してあいさつ運動を進め、85%を超える児童が肯定的な回答を示しているが、まだまだAの値が低いように思われる。今後もさらにあいさつが活発になるように努めたい。

Q VI-5 「短縮日課等，時間割の工夫をする中で，授業時数の確保に努めている」



※昨年度の大雪や台風による臨時休業において，7校時を設けるなどの手立てを取り，授業時数の確保に努めてきた。今年度も，行事に関する取組時数の見直しや学期末における午後の授業などによって時数を確保し，児童の学力の定着を図っている。

### 3 まとめ

#### 〈成 果〉

- ・学校経営や学校運営等，教育活動全般について，肯定的な評価が高いものが見られた。
- ・職員会議等に出すことにより，教職員自己評価，保護者アンケート，児童アンケートの結果は，今後の学校運営や教育改善の参考資料とすることができる。
- ・生徒指導について，問題行動への対応や指導体制や情報の共有化などがしっかりとされているという結果が出ているので，今後も続けていきたい。
- ・本校では，評価委員会や協力者会議をはじめ，地域との連携も深まっていることが分かる。さらに連携を模索する中で，有効な教育活動を計画していきたい。
- ・児童の多くが学校や授業を楽しく感じ，頑張っている姿をうかがうことができた。また，仲の良い友達がいるという児童が95%を超えている。保護者の意識についても同様。
- ・困ったことがあったら，相談できる友達や先生がいる児童が80%を超えている。反面20%程度の児童の相談相手になれるよう努力する必要がある。保護者にとっても同様。
- ・少しずつ家庭学習の習慣がついてきている児童が増えている。今後もさらに向上させる指導を続けていきたい。

#### 〈課 題〉

- ・学校評価（教職員自己評価・児童アンケート・保護者アンケート）の調査結果について，教職員一人一人が真摯に受けとめ，今後も肯定的な回答率100%を目指していくこと。
- ・肯定的な回答のかけにかけられている，少数の否定的な児童に対し，今後もより細かく丁寧な見取りや対応が必要となってくる。併せて，児童とのコミュニケーションを深める中で，児童や保護者との信頼関係を築きながら，より一層問題行動（いじめや不登校等）への早期発見，早期対応を図ること。
- ・キャリア教育などにより，すべての児童が夢を持てるような教育を推進していくこと。
- ・今年度までの研究を生かし，児童が進んで質問や意見を出し合い，自ら学べるような授業づくりを進めること。ここ数年向上が見られないことから，特に学習規律や発言のルール等については，本校としての形を作るなどして全校統一した形で取り組む必要がある。
- ・家庭や地域との連携をさらに強め，協力をいただく中で学校教育の活性化に努めること。
- ・今年度始めた家庭学習への指導を継続し，より充実させていくこと。
- ・職員のメンタルヘルスへの取組を今後も計画的に実施していくこと。